

# 同定依頼検査よりみた千葉県におけるマダニ被害 (平成2年度-平成9年度)

角田 隆, 森 啓至<sup>1)</sup>, 藤曲 正登

Tick-caused injury on the evidence of identification in Chiba Prefecture  
(April 1, 1990-March 31, 1997)

Takashi TSUNODA, Keiji MORI and Masato FUJIMAGARI

## I はじめに

マダニ類による被害には、(1)宿主皮膚の損傷、(2)毒性物質の注入、(3)貧血、(4)麻痺症、(5)病原体の媒介などがあげられる<sup>1)</sup>。この中で(1)宿主皮膚の損傷は、宿主とされた対象が人間であった場合にマダニ咬症(またはマダニ刺症)として公衆衛生上問題とされる。また、(5)病原体の媒介においても、ライム病や紅斑熱群リケッチア症はマダニ媒介性であると報告されている<sup>2)</sup>。

千葉県に生息するマダニ類の生態に関してはこれまでいくつかの知見が明らかにされたが<sup>3)</sup>、具体的な被害内容に関する報告はまだ行われていない。県内におけるマダニ被害の状況をまとめておくことは、刺咬症の原因となるマダニを特定できるばかりでなく、マダニ媒介性の疾患を調査する上でも重要である。我々は、平成2年度より平成9年度までに、保健所などの医療機関を通じてあるいは直接個人より当研究室に持ち込まれたマダニ類に関する同定依頼検査を集計した。

## II 検査方法

成虫の同定は山口<sup>4)</sup>にもとづき実体顕微鏡下で行った。若虫・幼虫は、ガムクロラル封入標本を作成した後、北岡<sup>5)</sup>、高田<sup>6)</sup>にもとづき生体顕微鏡下で同定した。

## III 成績

平成2年度から平成9年度まで8年間の依頼件数は9件であった(表1)。1件がヤマトマダニで、残りの8件がフタトゲチマダニであった。被害別にみると、刺咬が4件、服や靴への付着による不快感が2件、室内への持ち込みが2件、ペットへの寄生が2件であった。依頼のあった時期は6、7月と9、10月に集中していた。6、7月の依頼はフタトゲチマダニ若虫・雌であり、9、10月はフタトゲチマダニ幼虫・若虫、ヤマトマダニ雌であった。依頼者の住所が不明の場合、仲介した医療機関の所在地を当てはめると、特定の地域への偏りはみられないが、柏市・浦安市・千葉市などの都市からも依頼があった。

表1. マダニ類同定依頼検査結果(平成2年度-平成9年度)

年 月 日	依頼者住所	マダニ類	被害状況
1990/09/29	大網白里町*	<i>I. ovatus</i> (F)	ヒトに吸着
1991/07/09	鎌ヶ谷市	<i>H. longicornis</i> (F/N)	ヒトの肩に吸着、犬に寄生
1992/07/10	八日市場市*	<i>H. longicornis</i> (F)	ヒトの頭部に吸着
1993/10/21	鴨川市*	<i>H. longicornis</i> (L)	ヒトの脚に付着
1994/06/21	浦安市	<i>H. longicornis</i> (F)	ヒトの肩に吸着
1996/06/17	柏市	<i>H. longicornis</i> (F)	ヒトの肩に吸着
1996/07	柏市	<i>H. longicornis</i> (N)	室内で発見
1996/09/20	茂原市	<i>H. longicornis</i> (N)	室内で発見
1996/10/02	千葉市	<i>H. longicornis</i> (F)	犬に寄生

\* : 仲介した医療機関の所在地

*I. ovatus* ; *Ixodes ovatus*, *H. longicornis* ; *Heamaphysalis longicornis*

F ; Female, N ; Nymph, L ; Larva

## IV 考察

山口<sup>7)</sup>によると、関東エリアのマダニ刺症例における優占種はシュルツェマダニとヤマトマダニである。しかしながら、今回4

例中3例がフタトゲチマダニであり、過去に県内で報告されたマダニ刺症例1例はキチマダニである<sup>3)</sup>。よって、千葉県では刺咬種のうちでチマダニ属の割合が高いことから、むしろ西日本型のパターンを示しているといえる。

今回の結果では、被害者の住所はほぼ県内全域に及んでいる。森・藤曲(1993)<sup>3)</sup>によるとフタトゲチマダニはほぼ県全域に生息する。依頼前の被害者の行動は明らかにできなかったが、新興住

千葉県衛生研究所

1) 中央食肉衛生検査所  
(1998年11月12日受理)

宅地での発生や室内への持ち込みがみられたことから、都市部においてもマダニと接触する可能性があると思われる。また、犬への寄生が2例みられたことから、ペットによるマダニとの接触にも気をつけるべきであろう。

## V まとめ

1990年より1997年までに、当研究室に持ち込まれたマダニ類に関する同定依頼検査を集計した。依頼のうち、1件がヤマトマダニで、残り8件がフタトゲチマダニであった。千葉県では刺咬種のうちでチマダニ属の割合が高い傾向がみられた。また、都市部においてもマダニと接触する可能性があるため、ペットによるマダニとの接触も今後考慮するべきである。

## VI 謝辞

検体を提供していただきました、各保健所の環境衛生班の皆様ならびにその他の医療機関の皆様へ感謝します。

## VII 参考文献

- 1) 浅沼 靖 (1965) : マダニ類, ダニ類 (佐々 学編), 東京大学出版会 (東京), pp101-128
- 2) Sonenshine, D. E. (1993) : Biology of ticks Vol. 2, Oxford University Press (Oxford), pp465
- 3) 森啓至, 藤曲正登 (1993) : 千葉県における市町村別マダニ採集状況, 千葉衛研報告, 17 : 37-40
- 4) 山口昇 (1977) : 日本産マダニ上科の検索, ダニ学の進歩 (佐々 学・青木淳一編), 北隆館 (東京), pp602
- 5) 北岡茂男 (1985) : マダニ科チマダニ属の未成熟期の検索, 家畜衛試研究報告, 88 : 49-63
- 6) 高田信弘 (1990) : 病原ダニ類図譜, 金芳堂 (京都), pp216
- 7) 山口 昇 (1994) : マダニ類による人体刺咬症例の概要, SADI組織委員会編, ダニと疾患のインターフェイス. YUKI書房 (福井市), pp179